

しろくま通信



先々週からお彼岸について書いています。

ここでいう「智慧」は仏の教えのことで、日頃使っている「知恵」は生きていく上での学問・知識、本で読んだ事、人から聞いた事、役に立つ知識等のことで別物です。 仏の智慧のことをサンスクリット語で、「プラジュニャー」と言いますが、口語では「パンニャー」と言います。これが中国で漢訳されて「般若」(はんにゃ)となります。音訳ですから、漢字の意味は考えません。「般若の面」はご存じですね。この面には、怒りと悲しみが彫り込まれています。仏の智慧を一言で言い表すのは大変ですが、智慧が無くなるとこうなるということを表しています。彼岸は「パーラム」、渡るというのは「イター」と言います。つまり、パンニャーをもって、パーラムにイターせよ。続けて言うと、パンニャー、パーラム、イター。パンニャーパーラムイター、ハンニャハラミタとなり、音訳した漢字をあてると「般若波羅密多」(はんにゃはらみた)となり、般若心経の冒頭に出てくるフレーズがこれです。何もあの世(彼岸)に行かずにこの世(此岸)で、仏の智慧である六波羅蜜をもちいて煩惱の火を消して、幸せに生きることを考えてみようというのが、彼岸の意味となります。

六波羅蜜



- 一、「布施」 他人へ施しをすること
- 二、「持戒」 戒を守り、反省すること
- 三、「忍辱」 不平不満を言わず耐え忍ぶこと
- 四、「精進」 精進努力すること
- 五、「禅定」 心を安定させること
- 六、「智慧」 真実を見る智慧を働かせること



前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！

